

第 13 回
千葉県建築文化賞
表彰作品集

2006年

主催：千葉県 共催：社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 堂本 暁子

平成18年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、すぐれた建築物を表彰することにより、建築文化や居住環境に対する意識を高め、うるおいとやすらぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的に平成6年度に創設されました。

第13回目となる今年度は、71点の多彩な作品が寄せられましたが、選考委員会の厳正な選考に基づき、建築文化賞4点及び建築文化奨励賞4点を決定いたしました。

受賞作品は、街並み景観と一体化した空間をもち、透明感のある外観デザインの地域交流型の教育施設、複雑な形態でありながら、ヒューマンスケールのランドスケープを作り出している住民交流施設、築100年の質蔵を修復・再生させ、今後のまち並み景観のモデルにもなりうる住宅、自然換気や自然採光を積極的に取り入れ、外観を特徴づける金属製外付けブラインドを採用するなど環境面で様々なチャレンジを試みた教育・研究施設など、いずれも平成18年度の千葉県建築文化賞にふさわしい質の高い先導的な建築物です。

関係の皆様の情熱と新しい発想が込められた、これらの建築物は、地域社会の中で親しまれ、より良い街づくりの推進と今後の建築文化の発展に貢献するものと期待しております。

地域の優れた景観や歴史・文化は、社会全体の共有財産であり、建物や街並みにも美しさが求められています。このような認識に立ち、県といたしましても、ユニバーサルデザインによる建築物の整備、環境にやさしい建築物の整備など、県民一人ひとりが安全で安心に暮らせる街づくりを推進しております。

そして、こうした取り組みを通して、人と人との「ふれあい」を大切に、仲良く暮らせる地域社会づくりを、600万県民の皆様と進めていきたいと考えています。

結びに、受賞者の皆様の今後ますますの御活躍をお祈り申し上げますとともに、選考委員、共催団体など皆様の御協力に深く感謝申し上げます。

平成19年3月

目 次

千葉県建築文化賞について	… 1	選考経過と総評	… 2
千葉市立美浜打瀬小学校	… 3	とみうら元気倶楽部	… 4
蔵替え(鴨川・質蔵のリフォーム)	… 5	東京大学柏キャンパス 新領域環境棟	… 6
山村邸	… 7	苅込邸	… 7
グループホーム美しの里	… 8	千葉市白井公民館・若葉図書館泉分館	… 8
応募(推薦)建築物一覧	… 9	千葉県建築文化賞選考委員会	… 9
受賞作品の位置	… 10	千葉県建築文化賞の実績一覧	… 10

応募71点から8点入賞(選考経過と総評)

(選考経過)

第13回千葉県建築文化賞は平成18年7月の委員会で募集要領を定め、8月から9月中旬まで応募を受け付け、総数71点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)点数は昨年より21点減少したが、応募作品の水準は高く、特に小規模な作品に佳品が目立った。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに2回の投票を行ったうえで、景観部門5点、ユニバーサルデザイン部門4点、環境部門4点を選んだ。

次いで11月上・中旬の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原 理雄

説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

その結果、建築文化賞4点、建築文化奨励賞4点を表彰候補作品として決定した。

なお、今回も従来と同様、選考の公明性を保つために委員は関係のある建築物については意見を述べず、票を投じないこととし、投票の結果、委員と関係のある建築物が上位を占めた場合は、そのことを確認したうえで表彰候補作品を決定した。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)	
				建築文化賞	同 奨励賞
景観に配慮した建築物		44	5	3	1
ユニバーサルデザインに配慮した建築物		12	4	—	2
環境に配慮した建築物		15	4	1	1
合 計		71	13	4	4

(総 評)

景観に配慮した建築物

景観への配慮は、建築物単体のデザイン水準とともに、まちの文脈への的確な応答を必要とする。いわば建築物の総合的な質がそこに反映されている。応募44点は、いずれもこの点への配慮を感じさせるものであったが、今回は住宅や教育施設・公共施設に好感の持てる作品が多かった。

「千葉市立美浜打瀬小学校」は、幕張ベイタウンにおける一連の小学校のデザインを受け継ぎ、まちと連続する開かれた教育の場と、半透明のファサードによる街並み景観形成を両立させている。「とみうら元気倶楽部」は、円筒形の劇場と保健福祉センターを中心とする住民交流施設であり、プランと高さの異なる空間を組み合わせ、田園的景観と調和したリズムカルな表情を生みだしている。「蔵替え(鴨川・質蔵のリフォーム)」は、築100年の質蔵をリフォームした住宅であり、環境部門の応募作品だが、なまこ壁の蔵を丹念に修復し再生させた設計が、今後の町並み景観形成のモデルになり得るとして評価された。この結果、3点が建築文化賞とされた。

奨励賞の「山村邸」は、佐原の景観形成道路に面した古い商家をミセの間を中心に修復したものであり、伝統的町家の形式をもとにした町並み整備の新しい手法を感じさせる。

ユニバーサルデザインに 配慮した建築物

この部門への応募は12点であった。ユニバーサルデザインへの配慮が、福祉施設・公共施設というまでもなく、民間施設や個人住宅にも普及していることを実感することができたが、残念ながら今回は建築文化賞の該当なしとした。

奨励賞の「菊込邸」は、築100年の民家を再生し、大屋根をいただく古民家の風情を活かしながら、90代の父親とその息子夫婦のために使いやすく快適な住まいを提供している。「グループホーム美しの里」は、高齢化が進む地域において、いわゆる施設的な性格を抑え、きめ細かな配慮によって、地域に開かれた暮らしの場を設けている。

環境に配慮した建築物

この部門の応募は15点であり、専用住宅、公共施設、教育施設など、幅広い用途の建築物が環境への注意深い配慮を感じさせた。

建築文化賞の「東京大学柏キャンパス新領域環境棟」は、PFI方式を用いて建設されたものであり、省エネルギーの推進、自然エネルギーの活用、研究活動変化に対応できる柔軟性などを入念に組み込み、デザイン的にも質の高い建築を実現している。

奨励賞の「千葉市白井公民館・若葉図書館泉分館」は、太陽光発電と雨水利用をはかり、床や壁にリサイクル製品を採用するなど環境に配慮するとともに、瓦屋根の和風平屋建てで緑の多い環境に溶け込んでいる。

選 考 の 基 準

- 千葉県内において、平成13年4月1日から平成18年3月31日までに完成(増築、改築、リフォームを含む)し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物で、この表彰趣旨に沿っているもの。
- 機能性やデザインなど総合的にみて優れた建築物であり、次のいずれかに該当するもの。
 - ①地域の特性や周辺の環境に十分配慮され、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
 - ②誰もが公平に、安全に、安心して、そして快適に利用できるよう配慮され、社会への参加や日常生活が容易に出来るような環境整備がされているもの。
 - ③エネルギーや資源の高度な有効利用を図ったり、自然を取り入れた建築の工夫や、地域の生態環境や防災に寄与する取り組みなどによって地域環境と親和させるなど、人と環境に対して健康快適な建築環境の向上について配慮されているもの。
- 建築基準法等の各法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないもの。